

[担当教員]

末包伸吾（教授） 高麗憲志（高麗建築設計一級建築士事務所） 浅井保（助教）

[Teaching Assistant]

宮本莉奈 (A71) 長央尚真 (A71) 落合洗介 (A71)

■課題概要

大学内での活動としての講義や演習・実習とは別に、ある一定の期間、空間を共にし、集中した活動や共通の目的をもって活動する場が求められている。この課題は、近畿圏の大学共通施設として位置づけ、セミナーや共同制作、スタジオ、社会との連携など学内では難しい様々な活動に対して自由で豊かな場を提供することを目的としている。

■計画敷地

計画敷地は、神戸市灘区の上り市街地に位置する灘丸山公園の土地を想定する。現在の公園用地の全部または一部をセミナーハウス用地として使い、敷地へのアプローチも南側の道路をそのまま利用するものとする。独自のアプローチを計画する場合は教員から指導をうけること。

■建築概要

建築施設の延べ面積は4,000㎡程度とし、階数・構造は自由とする。

■利用者

施設の利用者は主として大学生、大学院生、大学教員であり、15人単位（10人～20人）が6組宿泊でき、最大で150人の学生が共同で研修できる施設とする。また、指導教員や外来者が別に15人宿泊できる諸室を確保すること。

■提出図面

A1用紙にコンパクトにまとめること。

- ・全体配置図：1/500
- ・透視図／模型写真
- ・各階平面図、立面図、断面図：1/200 など



国土地理院 地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/>) をもとに編集者作成
課題敷地



講評会の様子

山景に抱かれて都海を見下ろす

芝崎琉

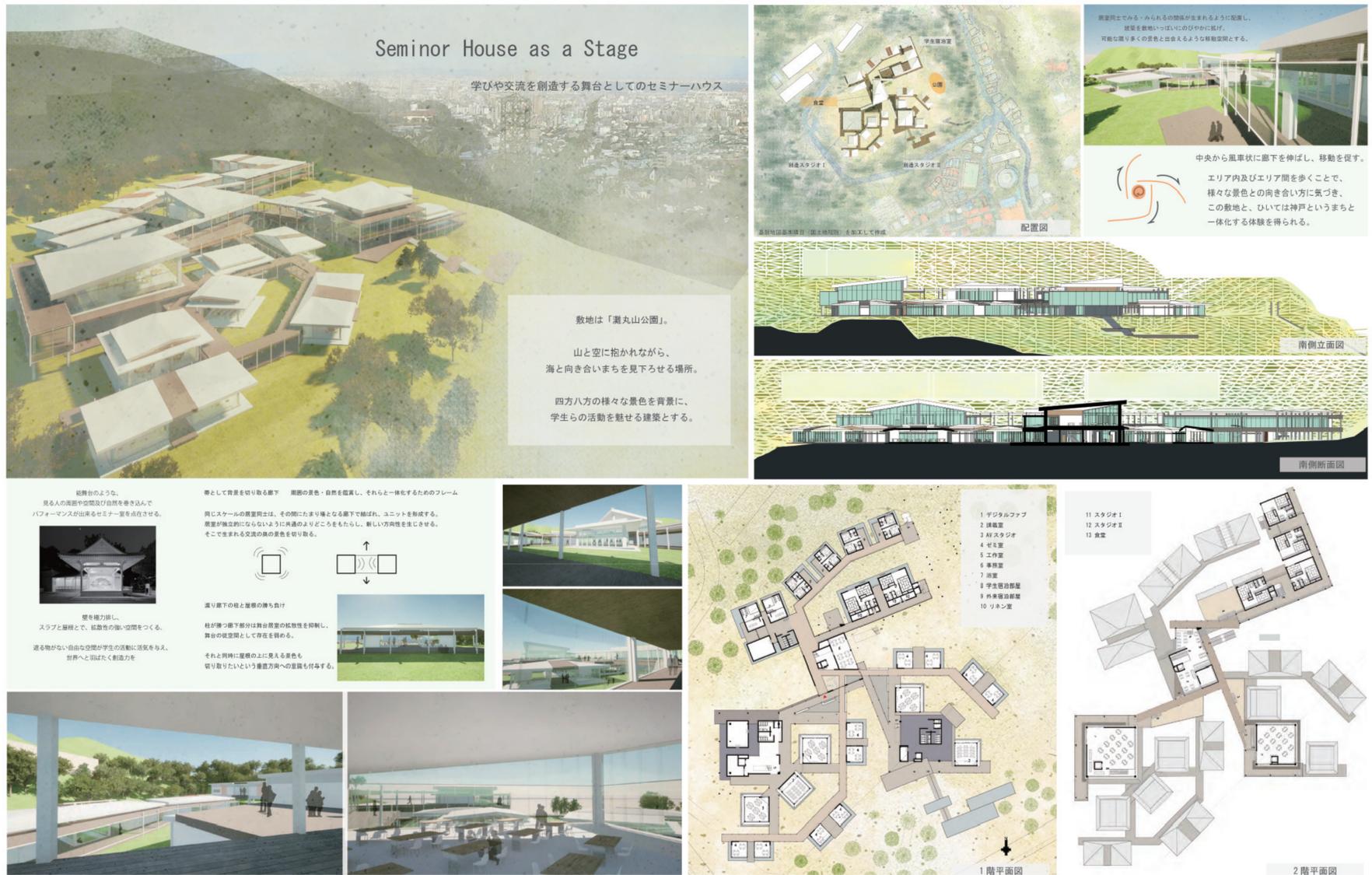
私たちは普段自身を大きく超える都市のスケールの中で暮らしている。人々が木々のスケールの中で過ごすことで傾斜や雨の様子など自然の振る舞いを感じ、人々と交流できるセミナーハウスをめざした。



Seminar House as a Stage

磯野巧輔

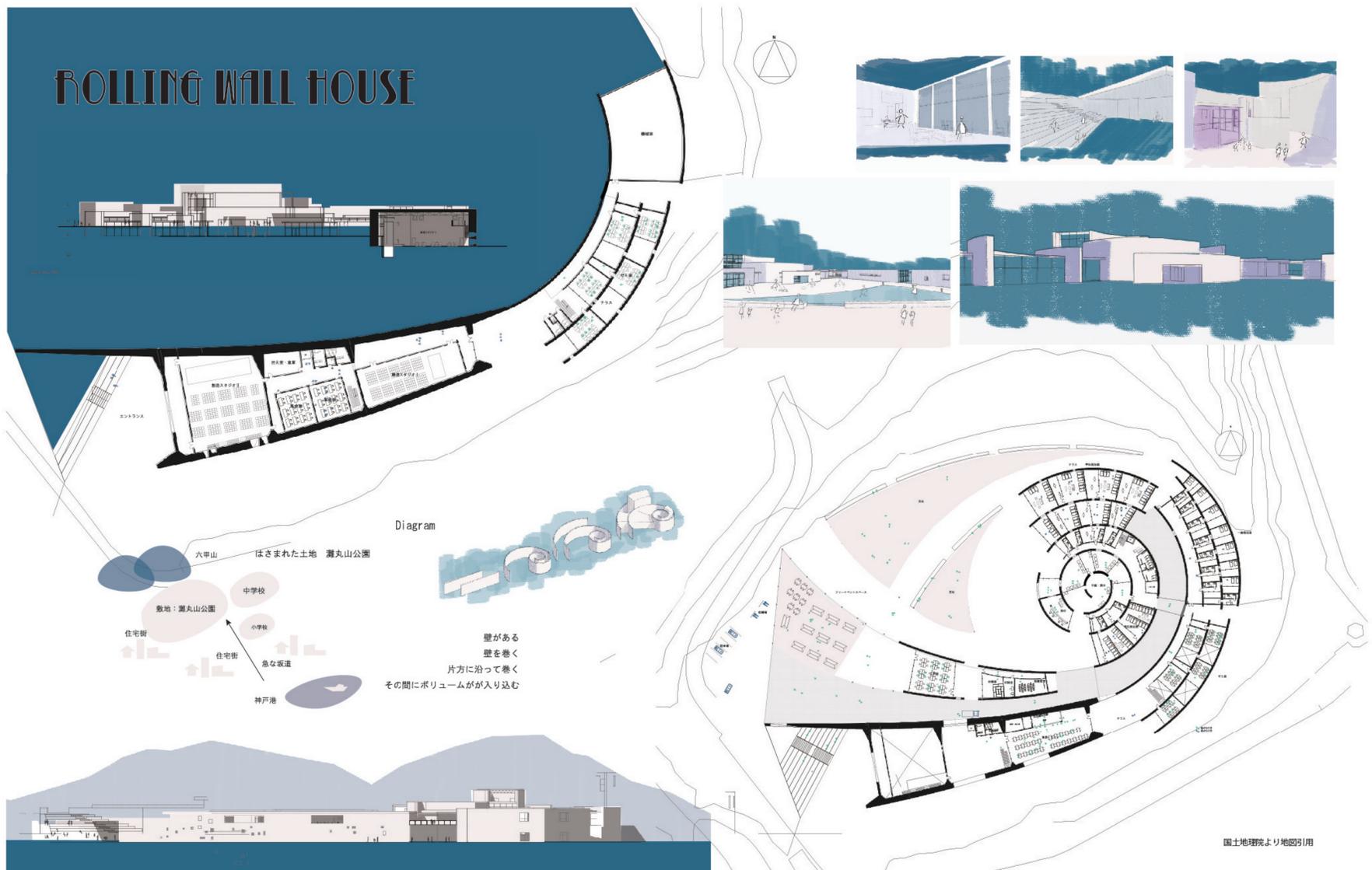
敷地の最大の特徴は、山と空に抱かれながら海と向き合いまちを見下ろせること。四方八方の様々な景色を背景に、学生らの活動を魅せるための舞台としての建築を提案する。まちに対する構え方や環境を巻き込んで展開するステージを、寝殿造や能舞台から着想を得てデザインした。



ROLLING WALL HOUSE

西浦咲季

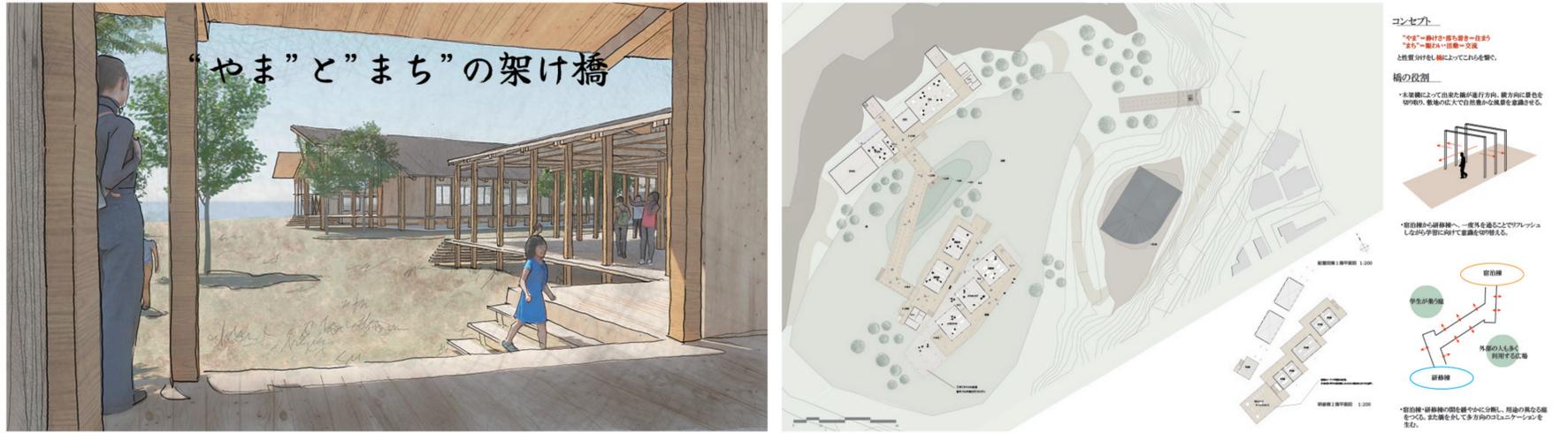
六甲山と神戸の海に挟まれた、灘丸山公園に、壁が建ち並ぶセミナーハウスを提案する。ホールから宿泊施設にかけて小さなボリュームになり、人と建築の距離が自然と移り変わっていく。集団での生活のなかで、個人の時間を尊重できる空間にしている。



“やま” と “まち” の架け橋

山本真菜

“やま” と “まち” のどちらも近くに感じられる敷地の特性をもとに、学生の活動をやま—静けさ—宿泊、まち—活動—研修という二つの性質に分け、間を橋で繋ぐ。橋は広大な敷地を緩やかに分断しつつ、多方向の自然豊かな景色を切り取り、外部の人々や学生の多方向の交流を生む。



流露・面・流景

北岡智也

セミナーハウスの特性には、移動時間の長さ、そして各室への集合・離散の状態が時間的に共存していることが挙げられる。生活のリズムによって生じている人間の疎密の状態のゆらぎを最大化するため、建築を室の定義ではなく、壁の集合と捉え、壁のみによる建築を目指す。

